

令和5年度第2回久留米市認知症支援ネットワーク会議（書面開催）回答書より

ご意見まとめ

●配布資料5「ガイドブック改訂プロジェクトチーム員（案）」について

反対意見なし

- ・口腔ケアも重要だと思う。（関委員）

●令和6年度版認知症支援ガイドブックについて

- ・目次が見易く、わかりやすい、整っている（武藤委員、関委員、中村委員ほか多数）
- ・現行に比べ、（順番を変更したことにより）すっきりと見易くなった。（関委員）
- ・認知症ケアパスを最初に配置したことで、ケア全体の目次（進行に伴うケアの流れ）としてわかりやすくなった。（中村委員）
- ・文言修正が適確にされており、わかりやすい。（中村委員）
- ・医療機関一覧について、住所の五十音順ではなく、医療機関名の五十音順掲載が分かりやすい、と地域住民、包括支援センター職員より意見あり。検討できないか。（橋本委員）
- ・にこにこ会の紹介ページに「おしゃべり会、カフェは日時場所などが変わる場合があります。事前にご確認ください」と入れたほうがよいのではないか。（藤井委員）

●当会議に対するご意見

- ・WEB開催を検討していただくと助かる。（杠委員）
- ・委員長のリードのもと、各種の問題や課題を十分に討議できとても勉強になった。これからは地域での支え合いがとても重要になる事を再認識し活動しなければと思う。（永松委員）
- ・久留米市には、認知症の啓発や支援のための会議や団体が活発に活動しているが、横のつながり、連携が弱い印象がある。県と市、民間と予算が別々だろうが、年間スケジュールや活動内容を整理すれば、もっと大きな効果を期待できるのではないか。（吉永委員）
- ・改訂プロジェクトチームでの協議・検討しての最終稿だが、今後は、日程的に厳しいと思うが、最終稿決定前に当会議でも一度協議する場を設けていただくと良いのでは。（大内田委員）
- ・認知症基本法（共生社会の実現を推進するための認知症基本法）を、久留米市でどう計画を立てていくのかをイメージしながら、現在ある認知症の社会資源や認知症カフェ、認知症の人と家族の一体的支援プログラムをどう進めていくかを、会議の議題に入れてほしい。（阿部委員）
- ・認知症があっても、地域で生活することを支える動きの中で、介護の専門職ももっと地域の取り組みに目を向けるべきと考える。もっと会議内の情報共有が必要と考え、定期開催があるとよいのではないか。（中村委員）
- ・冊子を利用して認知症を早めにキャッチしていけるように、あらゆるところで早めに学習していく事が大切なので、学習方法など考えていけたらと思う。（綾部委員）